いわき市未来ビジョンブック作成印刷業務委託仕様書

1　目的

この仕様書は、いわき市（以下「甲」という。）が受託者（以下「乙」という。）に委託する、いわき市未来ビジョンブック作成印刷業務について、必要な事項を定めることを目的とする。

2　委託期間

契約締結日から令和９年３月31日まで

※ただし、概要版については、令和９年２月末までにデータを納品すること

3　業務委託の内容

いわき市では、「誰もが住んでよかった、住み続けたいと思える魅力にあふれたいわき」をまちづくりの理念に掲げており、この実現に向け、市制施行60周年を迎える令和８年10月に、市制100年目までを見据えた目指すべきまちの将来像として「未来ビジョン」を策定したところである。

この「未来ビジョン」を市民へ広く周知し、その将来像の共有・浸透を図るため、詳しい解説や策定過程などをデザインやレイアウトに工夫を凝らした、わかりやすく親しみやすいビジョンブック本編及び概要版を作成・印刷すること。

■　ビジョンブック本編

(1)　規格等

①　作成部数　　300部

②　用紙　　表紙：フルカラー（紙質：微塗工紙160kg相当程度のもの）

本文：フルカラー（紙質：微塗工紙90kg相当程度のもの）

③　規格　　A4判、縦

④　ページ数　　表紙込み50～100ページ程度

⑤　製本　　無線綴じ冊子

(2)　構成案

①　未来ビジョンについて

ア　未来ビジョンの紹介

イ　未来ビジョンの解説

ウ　未来ビジョンに込めたいわき31万人のまちづくりビジョン策定プロジェクトメンバー（若者を中心として地域で活躍しているプレイヤー９名）の想い

※　各プロジェクトメンバーへヒアリングの上、作成して下さい。

②　みんなの未来予想図について

ア　みんなの未来予想図の紹介

イ　みんなの未来予想図の解説

ウ　みんなの未来予想図に込めた制作者の想い

※　制作者へヒアリングの上、作成して下さい。

③　これまでの歩み

ア　未来ビジョン策定までのスケジュール

イ　活動内容の結果まとめ

④　資料編

ア　各調査の結果詳細（市民の声集め・各団体ヒアリング・先人インタビュー・地区ワークショップ・市民アンケート）

イ　会議内容

ウ　各イベント（勉強会、オンラインイベント、オープンフォーラムなど）

※　ビジョンブックの構成については、甲と協議の上、決定するものとする。

■　ビジョンブック概要版

⑴　規格等

①　用紙　　フルカラー

②　規格・ページ数　A4判４～12ページ程度相当

※　データのみ納品

⑵　構成案

ビジョンブック概要版については、本編の内容を簡潔にまとめたものであり、主に市民等への説明に際して、配布する資料として活用するもの。なお、その構成及び規格については、甲と協議の上、決定するものとする。

■　共通事項

⑴　ビジョンブック本編及び概要版のデザイン等

・市民の目を引き、内容に興味関心を持ってもらえるような表紙とすること。

・未来ビジョン等に込められた想いや背景が伝わる内容とするため、適宜、記事の書き起こし等について、未来ビジョン策定プロジェクトメンバー等と協議を行いつつ作成すること。

・デザインやレイアウトに工夫を凝らし、市民にとって分かりやすく読みやすい内容とすること。

・WEBなどでの閲覧を意識したデザインとすること。

・色彩、文字の大きさ、見やすさ等、ユニバーサルデザインに配慮すること。

・各ページの内容に合わせた写真やイラスト、図表等を適宜用いること。

⑵　校正

・デザイン校正回数は３回（初校・再校・最終校）とすること。

・プルーフ出力による色校正は１回とすること。

⑶　その他、受託者が提案する事項に関すること

4　打合せ協議

業務の適正かつ円滑に実施するため、密接な連絡をとり、業務の方針及び条件等の疑義を正すものとする。

また、打合せを行った際は協議録を作成し、甲に提出すること。

5　資料の貸与

甲は、業務遂行上必要な資料で、甲が所有するものについてはこれを貸与する。

6　成果品

⑴　ビジョンブック：300部
⑵　電子データ
　完成データ（WEB閲覧・ダウンロード用に最適化されたPDFデータ及びdocxデータ等）をCD-ROM等の記録媒体により納品すること。

7　提出書類
　乙は、委託契約書に定めるもののほか、次の各号に掲げる書類を、甲の指定する日までに提出しなければならない。
⑴　委託業務着手届
⑵　委託業務完了報告書
⑶　実績報告書（仕様書６の成果品を添付すること）
⑷　その他甲が必要と認める書類

8　業務上の留意事項
⑴　本業務の実施にあたって必要となり取得する財産は、取得価格又は効用の増加価格が 10 万円未満であること。なお、10 万円を超える備品等について、リースまたはレンタルで対応できるものは、財産の取得ではなく、極力リース等で対応すること。
⑵　事業の実施にあたっては、労働基準法、労働関係調整法、最低賃金法、その他関係法令を遵守すること。
⑶　本業務に係る印刷物その他の版権及び業務において作成したデータ及び作成過程のデータの著作権及び所有権は、甲に帰属するものとする。
⑷　乙は、本業務の履行上知り得た秘密を第三者に漏らしてはならない。契約期間の終了又は解除後も同様とする。

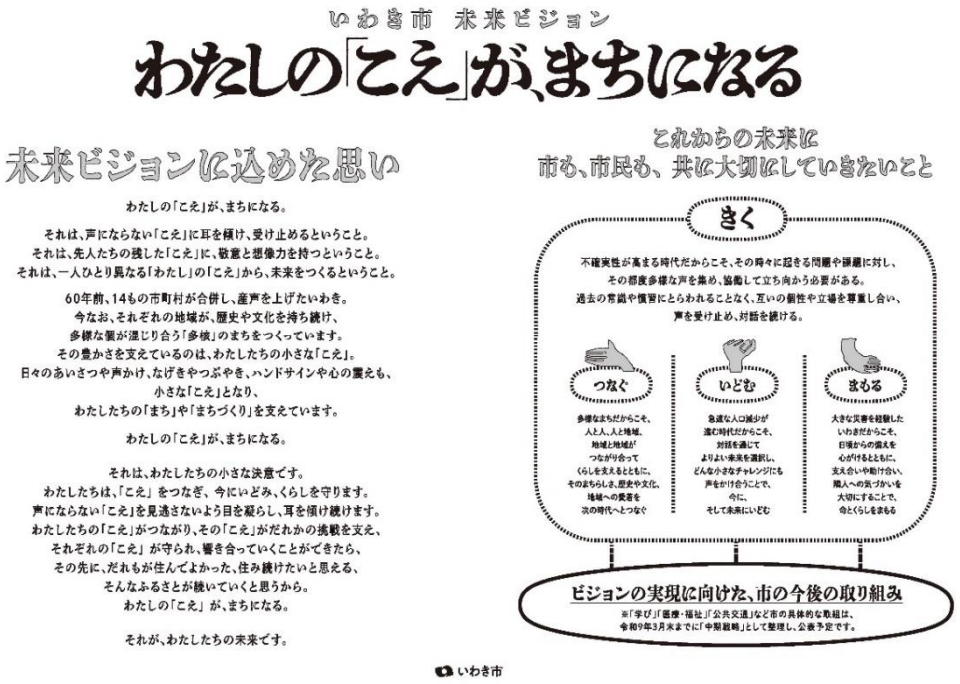
9　財産権の取扱い
　乙の委託業務の実施に伴って取得した財産は、原則として甲に帰属するものであるが、次の全ての要件を満たした場合は、甲に申し立てて乙に帰属させることができるものとする。
⑴　財産に関して出願・申請の手続を行う場合、甲に報告すること。
⑵　甲が公共の利益のために要請する場合、甲に対し、当該財産を無償で利用する権利を許諾すること。
⑶　正当な理由なく取得した財産を相当期間活用していない場合、甲の要請に応じて第三者への実施許諾を行うこと。
⑷　乙が財産に関する事業を実施しなくなった場合、当該財産を事業の目的に従い、希望する地域の関係者に譲渡する等、公益かつ公平な取扱を行うこと。

10　暴力団排除条項を確認するための書類
　次の書類を甲の指定する日までに提出しなければならない。
⑴　暴力団等反社会的勢力でないことの表明・確約に関する同意書

11　その他
⑴　令和８年 10 月に策定した「未来ビジョン」等の詳細については、仕様書別紙のとおり。
⑵　本業務の執行に関しては、甲との連絡を密にするなど、緊密な関係を保持するとともに、本仕様書の内容に疑義が生じた場合は、遅滞なく甲と協議して定めるものとする。

仕様書別紙

１．未来ビジョン



※画像の使用にあたっては改変やトリミングは禁止

２　みんなの未来予想図



※画像の使用にあたっては改変やトリミングは禁止

３　コンセプトムービー

わたしの「こえ」が、まちになる　｜　いわき市 未来ビジョン コンセプトムービー

URL　https://youtu.be/yNVJK_2zM7Q?si=4EpvyG4aArM0fC2F

４　イメージビジュアル



５　未来ビジョンの解説

メインメッセージの解説

メイン
メッセージ

わたしの「こえ」が、まちになる

◆込めた願い

「こえ」とは、はっきりとした意見だけでなく、
日常のつぶやき、あいさつ、声かけ、心の震えや祈り、
ハンドサインといったものも含みます。

そして、私たちの暮らす「まち」というものは、
だれかがつってくれるものではなく、
私たちがつくっていくもの、守っていくものであり、
いい「こえ」も、悪い「こえ」も、まちになっていきます。

まちづくりの土台には、いわき市に暮らす人たちの異なる「こえ」
地域それぞれの「こえ」がある。
多様な「こえ」を受け止め、拾い上げ
小さなアクションを積み重ねてゆく、
そんな「こえが響き合うまち」にしていきたい

という気持ちを込めています。

4

ステイトメント（宣誓文）の解説

ステイトメント
（宣誓文）

メインメッセージに込めた想いや背景

◆ステイトメント（宣誓文）全文

①
わたしの「こえ」が、まちになる。
それは声にならない「こえ」に耳を傾け、受け止めるということ。
それは、先人たちの残した「こえ」に、敬意と想像力を持つということ。
それは、一人ひとり異なる「わたし」の「こえ」から、未来をつくるということ。

②
６０年前、１４もの市町村が合併し、産声を上げたいわき。
今なお、それぞれの地域が、歴史や文化を持ち続け、多様な個が混じり合う「多核」のまちをつくっています。

③
その豊かさを支えているのは、わたしたちの小さな「こえ」。
日々のあいさつや声かけ、なげきやつぶやき、ハンドサインや心の震えも、小さな「こえ」となり、わたしたちの「まち」や「まちづくり」を支えています。

④
わたしの「こえ」が、まちになる。 それは、わたしたちの小さな決意です。
わたしたちは、「こえ」をつなぎ、今にいどみ、くらしを守ります。
声にならない「こえ」を見逃さないよう目を凝らし、耳を傾け続けます。
わたしたちの「こえ」がつながり、その「こえ」がだれかの挑戦を支え、 それぞれの「こえ」が守られ、響き合っていくことができたら、その先に、だれもが住んでよかった、住み続けたいと思える、 そんなふるさとが続いていくと思うから。
わたしの「こえ」が、まちになる。 それが、わたしたちの未来です。

①わたしたちが暮らすまちは、一人ひとりの小さな「こえ」によって、かたちづくられています。わたしたちが考える「こえ」とは、日々のあいさつや声かけ、地域での営み、誰かを思いやる気持ち、さらには、言葉にならない思いや願い、表情やしぐさも含まれます。だからこそわたしたちは、声にならない心の動きにも気を配り、耳を傾けていきたいと考えています。
過去にこの地に生きた人たちが残した「こえ」にも、わたしたちは耳を傾けます。それぞれの地域に受け継がれてきた歴史や文化、暮らしの中に息づく先人たちの思いや願いに敬意を払い、過去から現在へとつながれてきたものを未来へと受け継いでいきます。
「こえ」は、だれかの背中を押し、チャレンジを支えるものでもあります。わたしたちは、年齢や性別、暮らす地域、経験や価値観が異なる一人ひとりの「こえ」を尊重していきます。互いの挑戦を「こえ」で支え合うことで、誰もが自分らしく思いを伝え、住んでよかった、住み続けたいと思えるまちを目指そう。そんな想いも、メッセージに込めました。

5

ステイトメント（宣誓文）の解説

ステイトメント（宣誓文）

メインメッセージに込めた想いや背景

◆ステイトメント（宣誓文）全文

① わたしの「こえ」が、まちになる。
それは声にならない「こえ」に耳を傾け、受け止めるということ。
それは、先人たちの残した「こえ」に、敬意と想像力を持つということ。
それは、一人ひとり異なる「わたし」の「こえ」から、未来をつくるということ。

② ６０年前、１４もの市町村が合併し、産声を上げたいわき。
今なお、それぞれの地域が、歴史や文化を持ち続け、多様な個が混じり合う「多核」のまちをつくっています。

③ その豊かさを支えているのは、わたしたちの小さな「こえ」。
日々のあいさつや声かけ、なげきやつぶやき、ハンドサインや心の震えも、小さな「こえ」となり、わたしたちの「まち」や「まちづくり」を支えています。

④ わたしの「こえ」が、まちになる。 それは、わたしたちの小さな決意です。
わたしたちは、「こえ」をつなぎ、今にいどみ、くらしを守ります。
声にならない「こえ」を見逃さないよう目を凝らし、耳を傾け続けます。
わたしたちの「こえ」がつながり、その「こえ」がだれかの挑戦を支え、 それぞれの「こえ」が守られ、響き合っていくことができたら、その先に、だれもが住んでよかった、住み続けたいと思える、 そんなふるさとが続いていくと思うから。
わたしの「こえ」が、まちになる。 それが、わたしたちの未来です。

②本市の成り立ちを触れています。
これには、合併を知らない若い世代が増える中で、改めて「いわき市は多様な地域の集まりである」と伝えたいという思いがあります。
いわき市は、14 の市町村が合併してできた多核都市であり、多様性があります。
ここでは、その「多核」をバラバラや違いとして捉えるのではなく、それぞれの地域が持つ素晴らしい文化や歴史を「個性」や「強み」として表現しています。

参考
昭和 41 年 10 月１日に５市４町５村が合併して、いわき市が誕生しました。
５市：平、磐城、勿来、常磐、内郷
４町：四倉、遠野、小川、久之浜
５村：好間、三和、田人、川前、大久

ステイトメント（宣誓文）の解説

ステイトメント（宣誓文）

メインメッセージに込めた想いや背景

◆ステイトメント（宣誓文）全文

① わたしの「こえ」が、まちになる。
それは声にならない「こえ」に耳を傾け、受け止めるということ。
それは、先人たちの残した「こえ」に、敬意と想像力を持つということ。
それは、一人ひとり異なる「わたし」の「こえ」から、未来をつくるということ。

② ６０年前、１４もの市町村が合併し、産声を上げたいわき。
今なお、それぞれの地域が、歴史や文化を持ち続け、多様な個が混じり合う「多核」のまちをつくっています。

③ その豊かさを支えているのは、わたしたちの小さな「こえ」。
日々のあいさつや声かけ、なげきやつぶやき、ハンドサインや心の震えも、小さな「こえ」となり、わたしたちの「まち」や「まちづくり」を支えています。

④ わたしの「こえ」が、まちになる。 それは、わたしたちの小さな決意です。
わたしたちは、「こえ」をつなぎ、今にいどみ、くらしを守ります。
声にならない「こえ」を見逃さないよう目を凝らし、耳を傾け続けます。
わたしたちの「こえ」がつながり、その「こえ」がだれかの挑戦を支え、 それぞれの「こえ」が守られ、響き合っていくことができたら、その先に、だれもが住んでよかった、住み続けたいと思える、 そんなふるさとが続いていくと思うから。
わたしの「こえ」が、まちになる。 それが、わたしたちの未来です。

③60年のまちのあり方を振り返ってみると、誰かの大きな声や号令のもとにまちができてきたわけではありません。市民一人ひとりの日常の挨拶、地域活動への参加、誰かを思いやる気持ち、そして「こんなまちにしたい」という願い。それらが今の暮らしにつながり、そうした一人ひとりの小さな「こえ」が積み重なって、未来のまちをつくっていくという意味を込めています。
表現をあえて「こえ」としている理由は、自分の気持ちを表すものが、口から発する「声」だけではないと考えるからです。想いを伝えるための音や動作である「聲」、さらには祈りのような心の動きまでをも「こえ」として包括したいという想いからです。
そして何より、「こんなまちにしたい」「これを守りたい」という私たち一人ひとりの「こえ」こそが、これまでのまちを形作ってきたと考えています。

ステイトメント（宣誓文）の解説

ステイトメント（宣誓文）

メインメッセージに込めた想いや背景

◆ステイトメント（宣誓文）全文

① わたしの「こえ」が、まちになる。
それは声にならない「こえ」に耳を傾け、受け止めるということ。
それは、先人たちの残した「こえ」に、敬意と想像力を持つということ。
それは、一人ひとり異なる「わたし」の「こえ」から、未来をつくるということ。

② ６０年前、１４もの市町村が合併し、産声を上げたいわき。
今なお、それぞれの地域が、歴史や文化を持ち続け、多様な個が混じり合う「多核」のまちをつくっています。

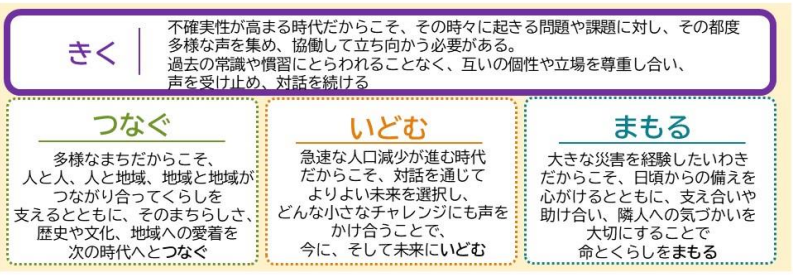
③ その豊かさを支えているのは、わたしたちの小さな「こえ」。
日々のあいさつや声かけ、なげきやつぶやき、ハンドサインや心の震えも、小さな「こえ」となり、わたしたちの「まち」や「まちづくり」を支えています。

④ わたしの「こえ」が、まちになる。 それは、わたしたちの小さな決意です。
わたしたちは、「こえ」をつなぎ、今にいどみ、くらしを守ります。
声にならない「こえ」を見逃さないよう目を凝らし、耳を傾け続けます。
わたしたちの「こえ」がつながり、その「こえ」がだれかの挑戦を支え、 それぞれの「こえ」が守られ、響き合っていくことができたら、その先に、だれもが住んでよかった、住み続けたいと思える、 そんなふるさとが続いていくと思うから。
わたしの「こえ」が、まちになる。 それが、わたしたちの未来です。

④まちづくりとは、小さな「こえ」の重なりの先に生まれ、未来へと繋がっていくものと考えています。「わたしのこえが、まちになる」という言葉には、これからも一人ひとりの「こえ」を聴き続け、未来をつくっていくという決意を込めています。
過去から現在へと想いがつながれてきたように、現在から未来へとつないでいく。
そして、日々の暮らしが地域のつながり、関係性の中で営まれてきたように、これからも人と人とがつながる。
また、若い世代や女性の皆さんからは「私たちの小さなチャレンジを応援するまちであってほしい」「伝統的な価値観にしばられるまちは息苦しい」といった意見が多く寄せられたことから、「そのこえが誰かの挑戦を支える」や「それぞれのこえが守られる」未来像を描いています。
31 万人それぞれが持つ、異なる思いや願いを受け止め、誰もが自分らしく「こえ」を発することができるまちを目指そうという想いを込めています。

各アクションの解説（きく）

1+3のアクション（市民と行政の行動指針）



◆込めた願い

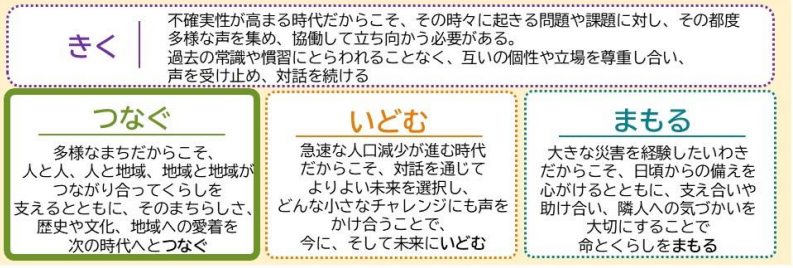
「きく」は、ビジョン実現に向けたアクションの土台となるものです。

今まで行ってきた地区ワークショップなどの取組みの中でも、「地域の人と対話する」、「よく人の話を聞く」、「周りの人たちに想いを寄せる」や「周りとコミュニケーションをとる」などの想いが寄せられたため、本アクションに位置付けました。

ここでいう「きく」は、単なる「傾聴」ではなく、誰もが安心して発言できる対話ができる場や環境があることが重要とかんがえており、声にならないＳＯＳや誰かが抱える悩みなどを察知する姿勢を大切にしたいと思います。

各アクションの解説（つなぐ）

1+3のアクション（市民と行政の行動指針）



◆込めた願い

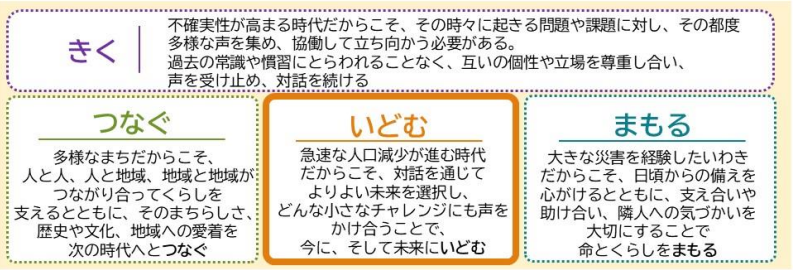
「きく」を土台として、取り組むアクションの１つとして、「つなぐ」を掲げています。

今まで行ってきた地区ワークショップなどの取組みの中では、「歴史・伝統・文化を残す、伝える」、「歴史を学ぶ」、「集まりに参加する」、「次の世代へ情報発信する」、「環境を守る」といった、人や地域のつながり合い、歴史・文化の継承、コミュニティに関する想いが寄せられたため、本アクションに位置付けました。

人も地域もつながり合い、そのまちを磨き、地域ならではの歴史や文化、そして地域への愛着を次の世代につないでいきたいという願いを込めています。

各アクションの解説（いどむ）

1+3のアクション（市民と行政の行動指針）

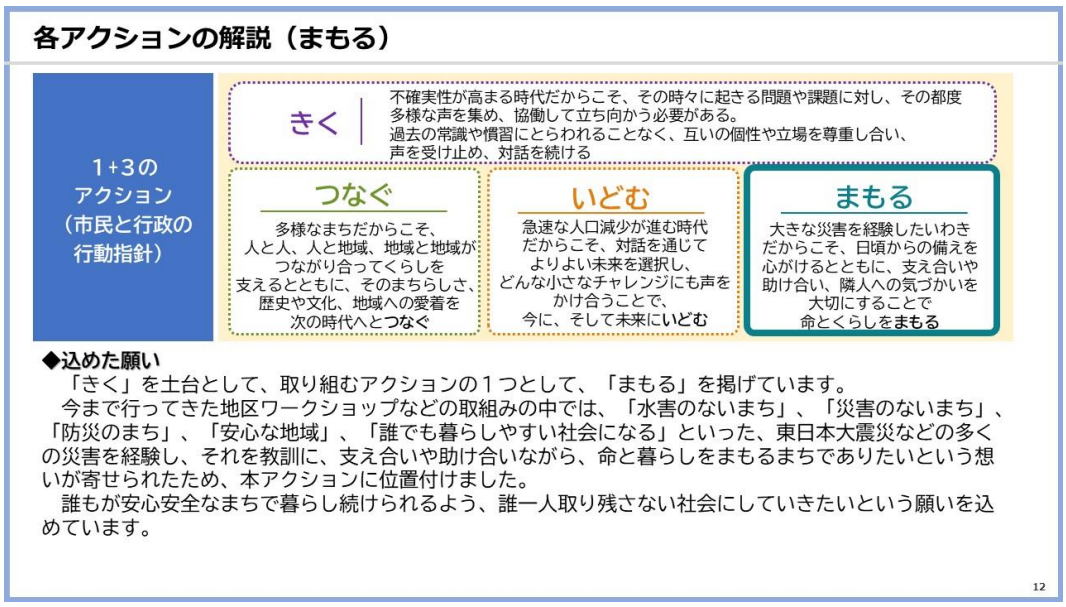


◆込めた願い

「きく」を土台として、取り組むアクションの１つとして、「いどむ」を掲げています。

今まで行ってきた地区ワークショップなどの取組みの中では、「出来ることから情報発信する」、「性別な年齢などにとらわれず、挑戦できる環境を作る」、「〇〇と言ったらコレというものをつくる」、「少しでも自分が出来ることはする」といった、自らがチャレンジすることやチャレンジする人を応援できるようなまちでありたいという想いが寄せられたため、本アクションに位置付けました。

人口減少や少子高齢化をはじめ、将来予測が困難なVUCAの時代の中であっても恐れず、正面から向き合い、どんな小さなことにもチャレンジでき、新たな価値観を受け入れることができるまちでありたいという願いを込めています。



6　これまでの活動・調査等

⑴　リサーチ期（R8.1～3）

・ヒアリング調査（団体・個人）：50件
・アンケート調査（しあわせ調査）：2,574件
・アンケート調査（PoliPoliGov）：403件
・声集め活動（市内小中学校・スーパー・イベント等）：7,083件
・先人インタビュー（市政やまちづくりを支えてきた方）：５名
・勉強会（歴史・まちづくり）：５テーマ７回：240名

⑵　ブラッシュアップ期（R8.4～6）

・地区ワークショップ（13地区）：292名
・学生ワークショップ（中学生ベースキャンプ等）：164名
・高校への出前講座：507名
・市民アンケート調査（第２弾）：439件

⑶　決定期（R8.7～9）

・ヒアリング調査（リサーチ期実施団体等）
・まちづくり団体との意見交換
・オープンフォーラム（イオンモール小名浜）
・オンラインイベント（YouTube）
・各イベントでの意見聴取（約束の成人式・未来トーク等）
・市民アンケート調査（第３弾）：653件
・議会・部長ワークショップ